

今回は、上級指導者として指導経験と指導力を活かし、インターナショナルスクールで子どもたちの英語指導をされている神保さんの実践報告となります。公立小学校での英語指導とはまた違った視点で子どもたちの英語指導に取り組まれている様子が伺われます。

J-SHINE 通信

2015年9月号

神保美喜さん

J-SHINE小学校英語上級資格者
現在東京都内のインターナショナルスクールで
英語指導活動に携わる。

■ J-SHINEの資格、 上級指導者資格取得のきっかけ

姪の英語教育で、幼い頃から楽しく学ぶことができ、非常に効果を上げることができたのが（株）アルクの教材の数々でした。子供に英語を教えるということを通して、私も沢山のことを学びました。そこで指導者資格のことを知り、いずれは取得したいと思っておりましたが、大きなきっかけとなったのは、2004年に、姪がインターナショナルスクール（幼稚園から高校までの課程がある学校）に通い始めたことです。そこで英語でのボランティア活動（通訳、子供たちのお世話など）をし、姪が小学校に上がった頃から、より確かな活動実績を積み上げたいという思いと、子供たちにできるだけ良い形で英語とかがかわってほしいという考えから、J-SHINE 資格取得を決意いたしました。取得までの学習期間は、実際自分が学校で子供たちと生活していることを再現することで、指導者としての具体的なイメージを掴まえることができました。インターナショナルスクールでは、英語を指導するということが、子供たちの毎日と英語で関わっていくということ。この自分のスタイルが通用するかどうかの見極めを登録団体（アルク）にして頂き、J-SHINE 取得のための推薦を得られたことに、感謝しております。2009年に小学校英語指導者資格を取得し、その後、活動時間数や経験など規定をクリアすることができ、2013年に上級指導者資格を取得いたしました。

■ 現在の活動状況

「インターナショナルスクール」という環境での英語指導は、国内の小学校での英語教育と差があるかもしれません。しかし、「言語のひとつ」として捉えれば、ネイティブのお子さんとうそでないおさんも、能力の発達途中です。可能性はどこまでもあります。私はその思いで活動を続けています。インターナショナルスクールは、英語が共通の言語。英語を学ぶのではなく、英語で学ぶということが大前提です。日本語の授業以外全ての教科は英語で行われます。そしてこの学校では、

専門職はもちろん、それに近いスキルを持った保護者による「学習のお手伝い」が重要な部分を占めています。この「学習のお手伝い」は、子供の「学ぶ環境」に興味を持ち、共感し、発展的な意見を述べることに繋がり、子供たちを支える保護者としての、大切な役割の一つになっています。私が実際に行った一例として、子供たちが社会科でマスコミについて学習した時、私とその関係の仕事にも携わっているため、「広告について」という題目での授業を任せられました（小学校4年）。担当の先生に授業のプラン（指導内容、テキストの有無一必要ならば自分で作成します。テストをするか、するならばどのような形で実施するかとの相談。DVD、ポスター、音源など、授業に必要な資料の準備）を提供します。先生の要望も取り入れ、90分の授業を実践しました。他にも、詩の朗読（読後、感想文を書いてもらい、一緒に学習する）見学旅行の際の現地スタッフとのやりとりなど、様々な活動があります。インターナショナルスクールで学ぶ日本人の子供たちが増えている今、英語に触れる子供たちについてたくさんの発見、気づくことが数多くあります。子供たちの英語への理解力、探求心には驚きます。コミュニケーションの重要なツールとしての英語が生きているのです。

■ 今後の目標、 上級指導者資格を目指す方々へのメッセージ

言語の大切さは、どこの国でも同じです。上級指導者として、英語という言語指導の発展のために更なる取り組みを考えていくことは勿論ですが、時には、子供たちと同じ目線で言語を捉えていくことがインターナショナルスクールでは必要なのだと思っています。子供たちと同じ目線で英語で考える、子供たちと同じ目線で英語を話していく、書いていく、しかし文法、言葉の使い方などに関してはしっかり教えていく、これはどの言語の指導も同じことだと思います。英語で子供たちとのコミュニケーションを広げるということは、英語によって子供たちの可能性を広げることでもあるのです。これから上級指導者を目指す皆様も、子供たちの限りない可能性を信じて資格取得を目指して頂きたいと思います。

今月の花 さぎそう